

# 英語科学習指導研究委員会

## 一 テーマ

学習指導要領に基づく、主体的・対話的で深い学びを実現するための外国語・英語学習のあり方  
～小中連携を通して～

## 二 テーマ設定の理由

小学校、中学校共に学習指導要領の実施から数年が経過し、数々の実践や児童・生徒の姿をもとに日々の学習の成果や課題が検証されてきている。

小学校では音声面の2技能(3領域)「聞くこと」「話すこと(発表、やり取り)」を重点的にコミュニケーション能力の素地や基礎を養ってきている。中学校ではその素地や基礎を生かし、4技能(5領域)の向上をめざした学習を進めコミュニケーションを図る資質・能力を養っている。しかし、実際の授業では、練習活動が多くなってしまい、言語活動の時間が十分に確保されていなかったり、自分の考えや気持ちを伝えるのに抵抗を感じる子どもがおり、言語活動が停滞したりと課題がある。

また、小中での教師間の連携も十分に行われているとは言い難い。小学校で慣れ親しんできた語彙を中学校では既習単語として扱い、何も見ずに書けることを求めてしまうこともあるように聞く。また中学校でも逆に小学校でもっとアルファベットをしっかりとけるようにしておいて欲しいなど、小中での連携や接続が十分とは言えない実態があることも課題である。

そこで、今年度は研究内容として次の2点に着目して研究を進めてきた。

- |                                    |
|------------------------------------|
| ① 子どもたちが主体的に自分の思いや考えを表現できるような教師の支援 |
| ② 話す意欲を高めるための個々への支援と評価の在り方         |
- ～小中連携を通して～

相手意識を大切にした言語活動を通して、意欲的にコミュニケーションを図ろうとする姿を育てていくことは、校種関係なく共通の課題である。さらに、評価については小学校の教科化による評価のつけ方や、中学校の学習指導要領に応じた評価の捉えやその方法の差などに課題がある。それらの課題を少しでも解決できるようにと思い、本研究テーマを設定した。

## 三 研究の経過

第1回委員会	令和6年5月 2日(木)	研究テーマ設定と研究計画の作成	(教育会館)
第2回委員会	令和6年6月 6日(木)	教育課程事前全校研究授業参観	(第三中学校)
第3回委員会	令和6年6月26日(水)	教育課程事前全校研究授業参観	(北御牧小学校)
第4回委員会	令和6年8月 7日(水)	教育課程研究協議会 研究協議Ⅱについて	(中央公民館)
第5回委員会	令和6年11月25日(月)	本年度の反省・研究のまとめの作成について	(教育会館)

## 四 研究の内容

### 1 教育課程研究協議会 東御市立北御牧小学校の実践に学ぶ

#### (1) 外国語活動・外国語科研究テーマ

子どもが夢中になって自分の考えや想いを英語で伝えあうための支援はどうあったらよいか。

#### (2) テーマ設定の理由・めざす子どもの姿

##### 1 子どもの実態・様子

- ・歌や音声を繰り返し聞き、それを真似して英語を口ずさむ姿が見られるようになる。次第に声が大きくなったり、表情が明るくなったりしてくる子どもも多い。
- ・繰り返し練習をしていく中で、新しい単語や主な表現の意味や使い方が分かり、使えるようになることに喜びを感じている姿がある。
- ・相手に紹介したいことや伝えたいことがあり、前向きに取り組もうとする姿がある。
- ・視覚的な手がかりがあると、聞き取った英語の意味を類推しようとする姿がある。
- ・外国語活動とのギャップを感じる子どもが多く、相手が何と言っているのか、自分が何を答えたらいいのかが分からずに困ってしまう様子が見られる。
- ・地域を知り、地域を愛する心を育む総合的な学習の時間（みまき学）では、活動に意欲的に取り組み、自分の思いや考えを伝え合おうとする姿がある。



##### 2 支援の方法

- ① 子どもにとって具体的で身近なコミュニケーションの目的・場面・状況を設定する。
- ② **学級担任のみ** **ALT+学級担任**の授業形式を交互に繰り返す形になるので、授業内容や展開についてALTと相談をして、子どもたちの実態や単元の目標に合ったものになるよう順番を入れ替えたり、展開を工夫したりする。
- ③ 毎時間の導入場面について、**(1) 英語での挨拶 (一対一) (2) フラッシュカードで単語の読み上げ (3) 映像を見聞きして声に出す**というようにパターン化している。
- ④ タブレットで自分の音声を録音して聞いたり、お手本の音声と比べたりして、相手に伝わるようにするために「聞く」「話す」活動を繰り返し行う。
- ⑤ 会話の内容を類推したり、自分が伝えたりする時の手がかりとして、文字やイラストなどを用いる。
- ⑥ 目的となる実際のコミュニケーションに向けて、相手を変えて何度も練習できる場を設定する。



##### 3 めざす子どもの姿

###### 自分の考えや想いを、夢中になって伝え合える子ども

- ・外国語の基本的な語句や表現などについて、日本語との違いに気づき、話すことや聞くことなどの実際のコミュニケーションに活用できる子ども。
- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について聞いたり、話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとする子ども。
- ・外国の文化に対する理解を深め、外国語を用いて進んでコミュニケーションを図ろうとする子ども。
- ・北御牧の魅力を伝えたいという思いやめあてをもって単元の学習に取り組む子ども。

#### (3) 外国語科学習指導案

① 単元名 Unit4 Let's see the World.

② 単元目標 (「聞くこと」ウ・「話すこと [発表] ウ」)

地域の魅力について自分の考えをもつために、行きたい国とそこでできることについての短い話の概要を捉えることができる。また、北御牧を知らない人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、北御牧の魅力について、自分の考えや気持ちなどを話すことができる。

③ Unit Goal

修学旅行で出会う外国から来た観光客の人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、自分たちのふるさと「北御牧」を紹介しよう。

④ 言語材料

- Let's go to . . . /Where do you want to go?/I want to go to . . .
- You can see . . . . / You can eat . . . / You can visit . . . / It's . . .
- Anything else?
- Map of the World 動作など 感想・様子 町

⑤ 単元の評価規準

「聞くこと」

知識・ 技能	知識	You can see[eat/buy] ~. It's ~. などの表現について理解している。
	技能	行きたい国とそこでできることについての短い話の概要を捉える技能を身につけている。
思考・判断・表現		地域の魅力について自分の考えをもつために、行きたい国とそこでできることについての短い話の概要を捉えている。
主体的に学習に取り組む態度		地域の魅力について自分の考えをもつために、行きたい国とそこでできることについての短い話の概要を捉えようとしている。

「話すこと（発表）」

知識・ 技能	知識	You can see[eat/buy] ~. It's ~. などの表現について理解している。
	技能	北御牧の魅力について、You can see[eat/buy] ~. It's ~. などの表現等を用いて、自分の考えや気持ちなどを話す技能を身につけている。
思考・判断・表現		北御牧を知らない人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、北御牧の魅力について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを話している。
主体的に学習に取り組む態度		北御牧を知らない人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、北御牧の魅力について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを話そうとしている。

⑥ 単元計画（全8時間）

時	◆ 目標	○ 主な学習内容及び活動	評価 (記録)
1	◆世界遺産の魅力を表した映像や音声を手がかりにして、行きたい国とそこでできることについてのやり取りの概要を捉え、その表現の仕方を知ろう。		
		○挨拶 単語カードを使って動作の単語練習も行う。 ○文化体験 教科書の映像や音声を使って世界遺産の魅力について関心を持つ。 ○Listen and Think ALTのスピーチも聞き、国の魅力を伝える言い方を知る。 ○ふるさと「北御牧」の魅力はどんな事があるか考える。 ○Small Talk ; What's this country? ○Sounds and Letters[v] Let's Sing /Let's Chant	
2	◆行きたい国とそこでできることについてのやり取りの表現を使って、修学旅行で出会った外国の人に北御牧の魅力を伝えるためにどんな表現をするか考えよう。		
		○挨拶 単語カードを使って動作の単語練習も行う。 ○Let's Sing /Let's Chant ○Small Talk;What do you want to eat?	

	<p>○ブライアンのモデル映像を見て、自分が紹介するときの表現の仕方をイメージする。</p> <p>○ブライアンのモデル映像を参考に北御牧について紹介したいことを日本語で考える。</p> <p>○デジタル教科書も利用し、必要な英単語やその発音を調べたりする。</p> <p>○Sounds and Letters[w]</p>	
3	<p>◆自分が考えた北御牧の魅力が友達や先生に伝わるかどうか発表して試してみよう。</p> <p>○挨拶</p> <p>○Let' s Sing/ Let' s Chant</p> <p>○日本語で考えた内容を英語の表現にして、友だちや先生に発表して伝えたい内容が伝わっているかを試してみる。</p> <p>○音声記録で今日の自分の発表を残しておく。</p>	
本時		
4	<p>◆前時のアドバイスを参考にして、より北御牧の魅力が伝わる表現にしよう。</p> <p>○挨拶</p> <p>○Let' s Sing/ Let' s Chant</p> <p>○前時の録音を聞き、説明不足だった事柄について文章を追加したり、言い方を変えたり、カードなどが必要ななら用意をする。</p> <p>○修正した自分の発表を音声記録で残しておく。</p> <p>○Sounds and Letters[y]</p>	話すこと (思・主)
5	<p>◆北御牧の魅力について、紹介カードを作ろう。</p> <p>○挨拶</p> <p>○Let' s Sing/ Let' s Chant</p> <p>○短時間に分かってもらうために必要なカードを英文も加えて準備し、カードを見せながら発表練習をする。</p> <p>○Sounds and Letters[z]</p>	
6	<p>◆北御牧の魅力について、例文を参考に書いた紹介カードを使って ALT や校内の先生方に伝わるかどうか試してみよう。</p> <p>○挨拶</p> <p>○Let' s Sing/ Let' s Chant</p> <p>○Small Talk</p> <p>○用意したカードも使って、ALT や他の先生方に聞いてもらって、練習をする。</p> <p>○Sounds and Letters[x]</p>	話すこと (知・技)
7	<p>◆修学旅行で外国の人たちに北御牧の魅力を伝えた時の様子を振り返ってみよう。</p> <p>○挨拶</p> <p>○Let' s Sing/ Let' s Chant</p> <p>○お互いの発表を聞き合いながら、修学旅行で自分たちの発表を聞いてくれた外国の方々の様子をふり返る。</p> <p>○Sounds and Letters[i]</p>	聞くこと (思・主)
8	<p>◆映像や音声を手がかりにして、外国の子どものことやその国の特徴について考える。また、音声やイラストを参考にして物語を読んでまとめをしよう。</p> <p>○挨拶</p> <p>○Let' s Sing/ Let' s Chant</p> <p>○世界探検の映像を視聴し、自分の発表を振り返る。</p> <p>○Sounds and Letters[Review④]</p>	聞くこと (知・技)

⑦ 本時案（全8時間中第3時）

【主眼】

北御牧を知らない人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、自分で考えた北御牧の魅力を英語で表現するスピーチを考え、友達や先生方に内容が伝わるかどうかを試すことを通して、自分のスピーチをふり返ることができる。

【留意点】

- ・分からない英単語が自分たちで調べることができるようタブレットを利用し、デジタル教科書や My Picture Dictionary を使用できるブースを用意しておく。
- ・自分の発表を音声でも確認できるよう、タブレットで録音できるように準備しておく。

【本時の流れ】

段階	児童の活動	指 導	時間	備 考
はじめ	挨拶をする 一人一人答える  感想・様子の英単語を単語カードを見ながら確認し発音する。 映像を見ながら、歌を歌い、基本的な文の意味と言い方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・How are you? と質問し、一人一人答えさせる。</li> <li>・単語カードで感想・様子の単語練習を行う。</li> <li>・Let' s Sing・Let' s Chant の映像を見せながら、スピードを調整し練習をさせる。</li> <li>・基本的な表現の仕方を確認させる。 You can see ～. You can eat～. You can visit ～.</li> </ul>	10	単語カード  デジタル教科書
<p>Today' s Goal 北御牧のことを外国の人に紹介するスピーチの内容が伝わるか友達や先生に発表して試してみる。</p>				
なか	<p>【録音①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語で書いたメモを参考に考えたスピーチを、タブレットに録音し、自分で聞きなおしてみる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【やりとり①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達同士で、何回か発表し合い、伝えたい内容が伝わったか聞き取れた内容を日本語で伝えて、確認する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットのボイスメモに録音した日本語メモを参考に考えたスピーチを、個々に聞き返してのように指示をする。</li> <li>・個々にスピーチの練習を行う。まだ、英文に自信のない子には声をかけ、一緒に英文の確認を行う。</li> <li>・英単語や発音が分からない場合は、My Picture Dictionary やタブレットを使うように指示をする。</li> <li>・友達同士でペアになり、話し手はいくつ魅力を言うのかを言ってから英語で発表し、聞き手は聞き取った内容を「**で、@@できる」など日本語で伝えるように、代表の児童と授業者でやり取りの師範を行う。</li> <li>・その他に、声の大きさや話すスピードで気が付いた点があれば伝えるように指示する。</li> <li>・友達のアドバイスを取り入れて何人かの友達とやり取りを行わせる。</li> </ul>	30	日本語メモ タブレット音声録音用 英単語検索用 デジタル教科書
か	<p>【やりとり②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参観している先生に自分で考えた英語が伝わるか聞いてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参観の先生方（特にALTの先生方）に紹介に行くように声がけをする。</li> <li>・なかなか声をかけに行けない場合は、希望者に声をかけ、授業者と一緒に発表をしに行く。</li> </ul>		
<p>自分が伝えたい北御牧の魅力を基本的な表現を使って、英語で表現しようとしていたか。（姿・録音）【話すこと [発表]】</p>				

お わ り	<b>【録音②】</b> ・今日の話せるようになった英文を録音し、記録を残す。	・今日の活動の姿を認め、今日の自分の話せるようになった英文を録音するように指示する。 ・やり取りの中で自分のスピーチを修正していた子の姿を紹介し、より聞き手の興味をひくスピーチにしていくことを次時の課題として知らせる。	5	
-------------	--	--	---	--

## 成果

### 【自らの学びに夢中になっていた子どもの姿】

- ・何回もくり返して口に出して練習することは安心・自信につながった。
- ・友だちにくり返し話すことや「one more please!」と言いながらしっかり聞く姿勢を取っていったことは自信を持ってスピーチできるようになっていった。
- ・自分の声を聞き返したり、前回と今回を比較したりできることがよい。
- ・スモールステップで（自分・友だち・先生）レベルを上げていながら繰り返し練習できる場を設けたことがよかった。
- ・前時に比べ、進んでALTに話しかけに行く子が多かった印象。具体的な目的があるので、挑戦できた子もいたかもしれない。
- ・実際のコミュニケーションとしての場を設定していたことが何より子どもたちの英語力の向上や伝えようという意識へとつながるものである。
- ・参観の先生方から質問されることにより、今後調べることが見つかったり、北御牧のよいところを再認識したりする機会となった。
- ・5人以上の参観者と話せた子どもが多くいたことは、この場面が自信・安心・意欲の向上に有効であった。
- ・もっと詳しく話した方がよい、つけ加えた方がよい、あのことも伝えたいと感じながらALTの先生と会話ができていると思う。たぶん、ALTの先生のアドバイスが大きかったと思う。
- ・1人目名前を聞かれて言う、2人目自分から名前を言う。ジェスチャーやメモを見せてなんとか伝えようとする姿があり、だんだん話しかけることになれていく姿が見られた。

### 【教師の支援】

- ・子どもと一緒に学ぼうとする教師の姿勢が子どもたちの大きな学びの環境になっている。教師の姿を見て、安心して英語を話すことができる学級の雰囲気。

## 課題

- ・友だ同士でのアドバイスは難しい。「安心」というところを大事にするならば、アドバイスの視点を示した方がよかった。
- ・友だちが「伝わらなかった」「分からなかった」のはなぜかを考えたり、相手に聞いたりしたい。
- ・次時の修正のために自分の課題をメモして振り返る時間があるとよかった。（中間評価）
- ・最後は録音ではなく、内容をどうしたいかをまとめるなど振り返りとして紙に記入する方が次時への課題が明確になったのではないかな。

- ・課題に気づくためには、ALTからのアドバイスをメモさせるなどの活動（カードを持たせる）を取り入れ、振り返らせる必要があると思う。  
⇒化石について参観の先生からアドバイスをもらったS児は、自分の紙にメモを取り、スピーチに加えていった。終了後、「次はあけぼの象について詳しく調べていきたい。どんな象かと聞かれたときに答えられないので、すぐに答えられるようにしていきたい。」と新たな課題を持つことができた。
- ・意欲的に取り組んでいた姿はALTの力によるところもあるので、参観者と会話するときのアドバイスの観点を事前に打ち合わせておくと、手立てとしてより有効なものになったと思う。

### 指導主事の先生によるご指導

・K児は、初め原稿を見ながらやり取りしていくが、繰り返しやり取りしていく中で最後はアイコンタクトをしなが

らやっていく姿が変わっていった。K児の姿から・・・

⇒①安心して発話できる。自信を持って発表ができる。

← 本時でめざすところ

②課題に気づいて意欲的に使おう。

ということが明らかとなった。

・Y児は、きれいな山が見える⇒「Asama mountain wonderful」と言い換えていった。

⇒先生方とのやりとりの中で気がついたことをつけ加えた。北御牧の魅力を伝えるという目的のために必要な情報を選び、つけ加えていった。

・K児は、北御牧の魅力をたくさん書き込んだマッピングの中から「八重原米」を選んだこと。

⇒「魅力を伝えたい+来たいと思ってほしい」という願い（目的）から情報を選択している。

↑ 思考力・判断力・表現力の育成につながっている姿

・単元構想のよさ

① 言語活動・・・練習試合の部分にあたる。

⇒単元末の言語活動（本番）に向けて、実際にやってみる（練習試合）を大切にしていく。

言語活動を通して、知識・技能を活用しながら、思考力・判断力・表現力を育成していく。

② Small Step になっているところがよい。

③ 達成する目的「北御牧を知らない人に行ってみたいと思ってもらえるように」という目的に立ち返って、何をアドバイスするのかを振り返る。目的・場面・状況に対して自分の発表はどうだろうという視点での振り返りが必要。

・今後に向けて

● 「何の目的のために北御牧の魅力を伝えようとしているのか」という原点に立ち返ること

● 何の情報が必要なのか、自分で選択していくこと

⇒これらを確認したうえで「イラストを見せながら伝えた方がいいかもしれないね」「自分の経験談が入っているといいかもね」と気づき、内容をアップデートしていくことができるとよい。やってきたことを活かせる修学旅行（本番）にしたい。それが英語で目指す思考力・判断力・表現力につながる。

## ・授業づくりについて

3つの資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）を育成するために外国語科の授業で大切にすべきこと

- ① 学習指導要領の目標や内容、CAN-DO リスト等を踏まえて、単元の目標や評価規準の作成
- ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定
- ③ つける力を明確にした逆算的な単元構想
- ④ 言語活動を通して、資質・能力を育成
- ⑤ 資質・能力の育成につながる中間指導の充実

練習	練習試合	試合
【本書に向けて】	【本書に近い状態で】	【本書】
音声や語彙、表現などの知識と活用できる技能	聞くこと、話すこと、読むこと、書くことと言語活動	実際のコミュニケーション
北御牧を知らない人に「行ってみたい」と思ってもらえるように	北御牧を知らない人に「行ってみたい」と思ってもらえるように	北御牧を知らない人に「行ってみたい」と思ってもらえるように
Let's Sing Let's Chant Small Talk	友に紹介 先生方に紹介 ALTに紹介	修学旅行で 外国人観光客に紹介する

## 2 教育課程研究協議会 上田市立第三中学校の実践に学ぶ

### I 研究テーマ

#### 全校研究テーマ

生徒一人ひとりが課題に対する自分の考えや表現を追求し、仲間と共に「できた」「わかった」を実感する授業のあり方  
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～

#### 英語科研究テーマ

自分の思いをより豊かに伝えるための指導はどうあったらよいか  
～既習表現を利用して自分の思いを伝えるための工夫～

### II 研究テーマ設定の理由

本校の生徒は、日頃より素直で明るく仲間を大切に思いやることができる。また、生徒会目標では生徒一人ひとりの存在を大切にしたいテーマが掲げられるなど、個の存在を意識したうえでつながりを深めていこうとする姿が見える。クラスや慣れ親しんだ友達の中では楽しく自分の気持ちを表現することができるが、しかし反面、何でもない日常の出来事に関する感想や、授業場面で意見を求めると、無言になってしまったり、「特にない」という言葉で返答してしまったりすることもしばしばある。また、お互いの持つ意見を尊重することはできるが、自分の考えを相手に理解してもらえよう、自分の言葉で説明したりすることが苦手な傾向が見られ、全国学力・状況調査や NRT の結果にも記述式や説明を問われる問題の正答率が低く、自分の考えや思いを表現したり、説明したりする苦手さが表れる結果となった。

今年度、本校の研究グループでは、生徒自身が授業を通して「できた」「わかった」を実感することを軸に、友との対話や意見共有の中から自分の考えを広げ、より確かな知識の習得を目指した。そのために一人ひとりが自分の考えや思考を巡らせるために ICT を活用した個別最適な学びの場面やペアやグループといった少人数で自分の考えを伝え合う協働的な学びの場면을授業展開に位置づけた。単なる知識の習得にとどまらず、「対話」を通して生徒同士



がさまざまな視点や考え方を伝え合う授業によって、生徒が自分の考えを他者と共有し、またフィードバックを受けることで、新たな発見や課題に対する理解が深まり、自己の変容と学び（できた・わかった）の実感となるだろう。それは、他の生徒の学習の活性化にもつながることを願うものであり、本テーマを設定した。

英語科では、相手意識に立って、自分の言いたいことをわかりやすく伝えるために、「話すこと・書くこと」という表現活動に力を入れ指導をしている。「既習表現を用いて自己表現できる力」をつけるために、テーマについて書くことや、またそのテーマについてやり取りをする活動を位置づけ、各単元の終末活動として取り組んできた。

どのような場面でも、どのような活動をしていても、自分の伝えたい内容がうまく表現できずに、活動が止まってしまう場面がみられ、これは英語で表現することに抵抗があるわけではなく、伝えたい内容が具体的になっていないこと、体験や経験が思考力の深まりになっていないこと、どの言語材料を駆使すれば良いのかわかっていないこと、などが原因として考えられと分かってきた。これらのことを取り除くために、英語科では、何について伝えていくのか、どのように伝えていくのか、誰に伝えていくのかの手順をはっきりさせながら表現活動を仕組むよう改善を図っている。日頃の授業で生徒の考えや発言を尊重し、どのような考えでも、間違いを怖れずに安心して話すこと（やり取り）から、お互いに質問したり、アドバイスしたりする仲間との学びあいの場を設定した後 presentation(発表)の段階に仕上げる過程を模索している。英語をコミュニケーションの道具として使用する経験を多く持たせること、その活動から、自分の言いたいことが「相手に伝わった喜び」「相手の言っていることが理解できた喜び」になり、日頃の小さな積み重ねが英語を使う力を養う生徒の学習意欲につながるものと考え本テーマを設定した。

### Ⅲ 学習指導案

【単元名】 Program 4 推しの魅力を伝えよう

【単元設定の理由】

Program 4 で比較級や、最上級、同等比較級などの表現を学んだ生徒たちが、What is your “Ichiban”? のやりとりを繰り返す中で、自分の好きなこと、興味のあること、教えてあげたいこと等多くのことに関わって伝えたい内容があることが伝わってきた。入学当初から同じクラスの仲間や、ALT に自分のことをわかってもらった表現活動に多く取り組んできた生徒たちに、自分の今一番興味のあること、好きなことに焦点を当て既習表現を取り入れて書かせることで、自分をより理解してもらえることにつながり、お互いの仲間意識が深まることにつながると考える。また、仲間の書いたスピーチを、手順や内容面についてお互い話し合ったりアドバイスをしたりすることを通して、よりよい発表につなげようと活動することは本校の考える学習集団の学びにつながると考えた。

【本単元に関わる教材研究】

学習集団に関	<ul style="list-style-type: none"><li>・2 学年の生徒たちは、昨年度学級別で学習を行い、クラス替えと共に今年度より少人数学習が始まったところである。学習形態としては数学で少人数学習に取り組んでいたために、英語科でもスムーズに教科学習に取り組んでいる。</li><li>・意見の多様性を求める場面ややり取りの練習場面では、意見や相手が限られてしまい活動が停滞することもある。人間関係で悩みを持つ生徒もおりペア活動やインタビュー活動が成立</li></ul>
--------	--

わ つ て	<p>しないことも若干あるが Small Talk や相手のごく身近な事柄についてのやりとりを通して、対話活動を続けようという意識が根付き、相手のことを引出そうとする姿勢が見られるようになってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Interactive Teacher Talk の場面を想起して、自分が表現したい内容を決め出して相手に伝えようと思えることができる。</li> <li>・ 伝えようとする内容にかかわって、どうしたらより分かりやすく伝わるのか、場面や状況によってアドバイスをしようと、自ら関わろうとしやすい題材である。</li> <li>・ 自分の好きなことや知っていることは、どんなことでも伝えていきたいという意識と共に、ICT を利用して発表内容を作成する場面では、抵抗感なく英語で表現しようと意欲的に取り組むことができる。</li> </ul>
教材の視点から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「推し」は生徒が「話したい」「聞いてもらいたい」題材に適しており、意欲的に活動に取り組める。伝えたい中心のテーマを決め出し、マッピングをもとに Do you know~? I like him. などの初歩的な文は英語が苦手な生徒でも紹介文として話せるのではないかと予想できる。</li> <li>・ 文章構成上の型を決め出したあとで、2年生になって学習した表現、接続詞や比較級、最上級などの既習文型を用いて、文章を話すことができる。</li> <li>・ サム先生により理解しやすい内容にするために、学習仲間同士お互いに質問し合ったり、アドバイスし合ったりする活動を言語面と内容面などと工夫しながら仕組むことができる。</li> <li>・ 発表段階では、事前に意味内容の伴った読みや、他者を意識した発表ができるよう練習を積み重ねることで言語活動を高められる。</li> </ul>
思考判断表現に関わって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「推し」についてより分かりやすくするために事実や、自分の考え、気持ちを整理するなど、どの内容に重点を置いて伝えるか、内容を整理することができる。</li> <li>・ 中学生の中で流行していることに興味がある ALT に、なぜ「推し」が魅力的なのか、理由と共に伝えることができる。</li> <li>・ モデル文や仲間同士のやり取りの中で、適切に言語が使用されているか、内容面で相手意識があるか思考することができる。</li> </ul>

【領域別目標】 話すこと [発表] イ

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話す事ができるようにする。

【単元の目標】 中学生の中で流行していることについて興味がある ALT に自分の推しの魅力を伝えるために、事実や自分の考え気持ちなどを整理したり、簡単な語句や文を用いたりして、まとまりのある内容を話すことができる。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで学習してきた語彙や文法の意味・使用場面を理解している。</li> <li>・ これまで学習してきた語彙や文法を活用し、自分の興味・関心のあることについて、適切な語句や文を用いて、話す技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学生の中で流行していることについて興味がある ALT に自分の推しの魅力を伝えるために、事実や自分の考え気持ちなどを整理したり、簡単な語句や文を用いたりして、まとまりのある内容を話すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学生の中で流行していることについて興味がある ALT に自分の推しの魅力を伝えるために、事実や自分の考え気持ちなどを整理したり、簡単な語句や文を用いたりして、まとまりのある内容を話そうとしている。</li> </ul>

【ねらいや学習活動】

時	ねらい(■)、生徒の活動(丸文字)	備考
1	<p>■教師のモデル発表を聞いて、自分の推しについて紹介する見通しを持つ。</p> <p>①Program goal を生徒と共に設定する。</p> <p>Program goal : ALT の先生に推しを紹介しよう。</p> <p>②教師のモデル発表を聞いて、自分の推しを紹介する見通しを持つ。</p> <p>③どんなスピーチにしたいか考える。</p> <p>④自分の推しを決め、マッピングをする。</p> <p>⑤スピーチをし合う。</p> <p>⑥スピーチの様子を撮影し、自分で見返し、ふり返りをする。</p>	<p>・ALT の先生は、JPOP、スポーツ観戦、アニメが好きでさらに知りたいという情報を伝える。</p>
2	<p>■友達と発表をくり返して、より良いスピーチにする。</p> <p>①教師のモデル発表を聞いて、内容を取捨選択したり、内容を整理したりすることの重要性に気付く。</p> <p>②前時に撮影した動画を見直し、より良いスピーチにする。</p> <p>③スピーチをし合う。</p> <p>④友達の発表を聞いて、良い所や使っている英語を共有する。</p> <p>⑤自分のスピーチをより良くする。</p> <p>⑥スピーチの様子を撮影し、自分で見返し、ふり返りをする。</p>	<p>記録に残す評価は行わないが、生徒の活動を確実に見届け指導に生かす。活動させているだけにならないよう十分留意する。</p>
3 本 時	<p>■友達と発表をくり返して、より良いスピーチにする。</p> <p>①友達の発表を聞いて、具体例や理由について話すことの重要性に気付く。</p> <p>②前時に撮影した動画を見直し、より良いスピーチにする。</p> <p>③スピーチをし合う。</p> <p>④友達の良い所や使っている英語を共有する。</p> <p>⑤自分のスピーチをより良くする。</p> <p>⑥スピーチの様子を撮影し、自分で見返し、ふり返りをする。</p>	
4	<p>■友達と発表をくり返して、より良いスピーチにする。</p> <p>①友達の発表を聞いて、良い点に気づく。</p> <p>②前時に撮影した動画を見直し、より良いスピーチにする。</p> <p>③スピーチをし合う。</p> <p>④友達の良い所や使っている英語を共有する。</p> <p>⑤自分のスピーチをより良くする。</p> <p>⑥スピーチの様子を撮影し、自分で見返し、ふり返りをする。</p>	<p>記録に残す評価は行わないが、生徒の活動を確実に見届け指導に生かす。活動させているだけにならないよう十分留意する。</p>
5	<p>■ALT の先生に向けた動画を撮影し、提出する。</p> <p>①前時に撮影した動画を見直し、より良いスピーチにする。</p> <p>②スピーチの様子を撮影し、サム先生へ提出する。</p> <p>③単元を通した振り返りを書く。</p>	<p>【評価】</p> <p>生徒の提出した動画から、評価する。</p>

IV 本時案

(1)主眼

ALT の先生に向けてスピーチの準備をする場面で、クラスメイトとスピーチをし合う活動を通して、互いのスピーチの良い点に気付き、自分のスピーチをより良くすることができる。

(2)本時の位置 全5時間中第3時

(3)指導の留意点

- ・クロームブックの活用、教科書の使用、友達と練習などそれぞれに合う方法でスピーチの再考を行うように促す。
- ・言語面でつまづいている生徒は、個別に支援する。

(4)展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導や支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>	時間
導入	1 友達の発表を聞き、使用している英語や良さを共有する。	ア理由を説明していたから、推しの良さが良く伝わるな。 イサム先生はサッカー選手については良く知らないので、まず初めにどんな選手か説明していたよかった。	◇どんな所が良かったか気づかせる。 ◇サム先生に向けたスピーチであることを確認する。	8分
	Today's Goal: 友達と発表をくり返して、よりよい発表をしよう。			
展開	2 自分の動画を見直し、より良い発表にするために、スピーチを再考する。	イ because を使って理由を説明しよう。 ウサム先生が、推しの歌手に興味があくように、具体的に好きな曲を説明しよう。	◇クロームブックの活用、教科書の使用、友達と練習などそれぞれに合う方法で、スピーチを再考するよう促す。	5分
	3 友達と発表をくり返し、良かったところを伝えあう。 (3分×2回)	エリコリス・リコイルというアニメは知らないけど、アクションシーンだけでなく、笑えるシーン・泣けるシーンがあると聞いて、面白そうだった。	◇言語面でつまづいている生徒は、個別に支援する。	6分
	4 友達が使用している英語や、友達の良かったところを全体で共有する。	オ for example や when を使っていたから、私も使ってみよう。 カ the best soccer player というように、最上級を使っていた。	◇ALT に向けたスピーチであることを再度確認する。	5分
	5 自分のスピーチを再考する。	キ What sports do you like?と問いかけていて、興味がわいた。 ク問いかけの文章を入れて、サム先生の興味をひこう。	◇友達の良かったところを、取り入れてより良いスピーチにするよう声をかける。	5分
	6 友達と発表をくり返し、良かったところを伝えあう。 (3分×2回)	ケ好きな曲だけでなく、曲の特徴についても紹介しよう。	◇一人で撮影するか、友達と撮影するかを、生徒に選ぶよう声をかける。	6分
	7 自分のスピーチを再考して動画を撮影する。			10分

終末	8 自分の動画を見返し、ふり返りを書く。	コ because を用いて理由を説明することができた。 ササム先生から興味を持ってもらえるように、内容面で工夫ができた。	【評価】 記録に残す評価は行わないが、仲間からのアドバイスを基に、スピーチを修正できているか確認し、今後の指導に活かす。	5分
----	----------------------	--	---	----

<授業研究会から教えていただいたこと 成果と課題>

- ① 仲間との発表を繰り返したり、モデルスピーチを参考にしたりしたことは、言語面・内容面を豊かにすることにつながったか。

【成果】

- ・導入時に数名の生徒の発表を見聞きしてその良さについて考えたことが、自分のスピーチへの改善に向けての見通しが持てた。
- ・理由をつけさせたり、接続詞でつないだりと内容面が最初の発表よりわずかではあるが豊かになっている生徒がいた。
- ・繰り返し仲間との発表を行ったことで、仲間のスピーチを参考にしながら自分の文に付け加えたり、自分の文を練り直したりする姿があった。
- ・中間指導（教師が生徒の良い表現を取り上げていた）から、その後の生徒の行動が自分のスピーチ内容を変えようとする姿に変わった。
- ・内容を豊かにするために、どんな言葉を使えばよいのか（I think. because など単語レベルで）理解できた生徒がいた。
- ・内容を豊かにするとはどの段階なのか、明確にしていないと自分のスピーチの改善ができないが、本時では気持ちや自分の考えを加えると方向性が出ていたため、仲間の発表を参考に再考させやすかった。
- ・もっと回数を多く取り組ませたい。これからの成長が楽しみ。この活動を日々行っていけば、「より豊か」な表現ができるようになる。

【課題】

- △仲間との発表回数が少ないために、使う表現が増えたかどうかは判断しにくい。
- △相手の良い点を見つけることで、自分のスピーチの振り返りができ内容面の豊かさにつなげることができるかもしれない。
- △発表の後、お互いに意見交換しあうことで、自分が思いつかなかった考えについて内容面をより深めることにつながるのではないか。
- △相手の目を見る、声量の豊かさなども話題に出して取り組ませてもいいのではないか。
- △練習活動なのか言語活動なのかあいまいな内容だった。
- △「今こんなことが流行っているよ」と別な視点で深めさせることも今後必要になってくると思う。

- ② ALT の先生を意識した目的・場面・状況の設定にしたことは、生徒の主体的なスピーチに有効であったか。

③ 【成果】

- ・相手が友だちでなく先生にしたことで、より詳しく伝えようという意識につながったと思う。
- ・ALT の先生からも自分のことを伝えるメッセージがあったので、より具体的にイメージして伝えることができたと思う。

- ・話題を「押し」にしたことが良かった。自分を中心に伝えることに終始できるテーマ選択だった。伝えたい気持ちが、回を増すごとに高まっていく。その意識が出ていた授業だった。
- ・ALT を意識したことで使う言語材料や内容面が明確になってくる。

#### 【課題】

- △ALT の先生が、どんなことについて知りたいのか明確になっていると、更により、
- △言語活動を展開することを考慮すれば、ALT の先生に質問した後、自分のスピーチを再考させたらよりさらに主体的に活動に取り組めるのではないか。
- △目的・場面・状況を ALT の先生だけでなく、友達へ向けていく方がより日常的な展開にとってよいのではないか。

#### 教育課程を終えて

- ・指導要領に沿って、テーマを据えて発表までのプロセスを組み、何回もやり取りを繰り返させる中で、自分の動画を見返して自分の伝えたい内容をよりさらに膨らめていこうという意識や、仲間とのやり取りの中から、自分に参考になる表現を取り入れて工夫しようという深まりが十分に感じられた。例え単語レベルであっても、生徒の意識改革につなげることができた。半面、生徒同士がやり取りを繰り返している中で、どのレベルまで教師が指導をするか、どのレベルまで発表の内容を高めるかの設定が難しいと感じた。「言いたいことが言えなかった」「どう伝えたいかわからなかった」を指導するのは、躓いた時がチャンスと理解していても、どのように改善していくか研究が続くと思った。
- ・仲間の発表を聞いてメモを参考に即興で何を言いたいかわかしていき、という現行のスタイルを続けていくことは、非常に困難で、高度な言語活動の能力が要求されると思う。平素から small talk の活動を積み上げ、常に英語を使う授業を展開することで生徒の英語力を高めていかなくてはと、再認識しました。

### 3 教育課程研究協議会 研究協議IIについて

#### (1) 小学校

今年度の研究協議IIでは、グループごとに英語専科やALTの実践紹介や、ALTからJTEへのお願いなどの活動を設定した。グループごとに出た意見を以下にまとめる。

#### 【英語専科の実践発表】

- ・「話すこと【やり取り】」に重点を置いて指導
- ・Small Talkで子どもに興味を持たせる
- ・新出表現はゲームを取り入れながら、楽しく触れられるようにしている
- ・英語の音に慣れながら、繰り返し扱うことを大事にしている
- ・小学校はアルファベットを正しく書く、自分の伝えたいことに関わる英語を書き写す、またはなぞる、まで。
- ・小中連携という視点で、CAN-DOリストの小中共同はどうか。北御牧小のCAN-DOリストには、小3～中学までの目標がわかりやすく書かれている。小中でお互いに確認できれば、そのような小中のギャップは少しでも減らしていけるのでは

#### 【ALTの実践紹介やJTEへのお願い】

- ・ALT1人を教室に置き去りにしないで（本当は一人だと指導できない）

- ・担任の先生の方が子どもの状況が分かっているので、注意してほしい
- ・ALT とデモンストレーションしてだんだん担任の先生もレベルアップしながら英語の授業に参加して欲しい
- ・担任の先生には間違ってもいいから英語をがんばって使おうとする姿をみせてほしい
- ・英語から離れていかないようにするためのつなぎ役日本語で補足してあげて欲しい
- ・小→中で書くことが本格化し、英語離れに
- ・Final Mission(単元のゴール)を HRT と共有
- ・楽しい外国語のゲーム→なんのための活動なのか
- ・HRT との打ち合わせの時間が少しでもほしい
- ・BINGO など、ゲーム活動を取り入れている
- ・視覚的にわかるように、絵で示したり、けん玉などの実物を使ったりしている。
- ・ALT と担任のデモンストレーションを大事にしている
- ・担任の先生との打ち合わせの時間が少ない。どのように指導、支援に入ったらいいかわからない  
その場でやってみても、「それは今はやらなくていい」と言われてしまう
- ・ALT 一人での授業はできないはずだが、教室に担任の先生がいないことがある

### 【その他】

#### ○担任の役割と ALT の役割について

- ・担任・・・学習規律面の指導 補足の説明
- ・ALT・・・生の英語 英語を使うモデル
- ・Picture Dictionary は良い
- ・単語の意味を覚える→使える
- ・オールイングリッシュじゃなくても OK 完璧じゃなくても OK
- ・担任の英語学習のモチベーションをあげる

#### ○中学校の先生から

- ・小学校で触れてきたであろう単語が、中学校でまだ定着していない
- ・単語をある程度書けるようになってきてほしい
- ・音はよく入っている生徒が多い。書くことも無理のない範囲で覚えさせてほしい

以上様々な実践発表や ALT が普段感じていることなどざっくばらんに話す機会になったと思う。全てに注意を向けて英語教育を行っていくことは難しいが、これなら自分ができるという事を一つでも見つけて取り組んでいただければ幸いである。

### (2) 中学校

日頃英語科の先生方との対話をする中で、どのように単元計画を立てればよいのか、活動ばかりやっても知識・技能が定着しないのではないかとといった疑問や課題を耳にすることが多かった。各校、言語活動の大切さに気づきながらも、実際の指導時間や評価の関係で、言語活動をベースにした授業に踏み切れていない現状がある。そこで、生徒につけたい力を明確にした指導や評価の在り方について学習指導委員の実践発表をした後、実際に単元計画を作成する時間を設けることで、上小地区外国語教育の指導改善を目指した。

### 【学習指導委員の実践発表より】

始めに委員から、「つきたい力を明確にした単元計画の方法と実際の指導」についての実践を発表した。現在の英語教育においては、目的・場面・状況を設定した言語活動を繰り返す中で、中間指導を行い、思考力・判断力・表現力の育成と知識・技能の定着を目指すこととされている。しかし、生徒が英語を正しく使えないのではないかという不安から、知識・技能の学習を中心とした授業からなかなか脱却できないということが課題となっている。そこで、3年生のPROGRAM5で行った実践を紹介した。チョコレートの歴史やカカオ農園での児童労働が本文のテーマとして取り上げられている。そこで「英語を通して、相手の気持ちを考えながら自分の思いを表現できる力を身につけてほしい」という自らの指導観に基づいて、「コフィとアペティに思いのこもったビデオレターを送ろう」という単元目標を設定した。そして、その目標を達成するために、日々の授業をどう組み立てていくか、評価計画はどのようにするかなどを事前に決め出した。単元目標や単元計画、評価計画は単元開始時に生徒共に共有し、生徒が「その単元で何を学ぶのか」と「その単元を通してどのような力をつけるのか」を常に意識できるようにした。

このように、①「なぜ英語を学ぶのか」という自らの指導観を基に単元でつきたい力を考え、②その力がついたかどうかを評価できる方法を検討し、③全員がB評価以上となるように日々の授業で何をするかという、指導観の確立とバックワード単元デザインの在り方について、全員で理解を深めることができた。

次は、実際に力がついたかどうか適切に評価を行うためのAI活用について、委員より実践を発表していただいた。リーディングテストで生徒の力や授業で育ててきた力に応じた適切な文章が見つからない場合は、「Chat GPT」を使用して、求めている文章を作ることができる。難易度は「英検〇級レベル」という指示を出し、文章のテーマや設定を入力することで英文を提案してくれる。多少の調整は必要であるが、求めている文章を作成するためには大変便利である。また、リスニング問題において自作の文章を読み上げてもらいたい時は「音読さん」、選択肢に用いるイラストを作成したい場合は「Canva」が活用できる。それぞれの使用方法についても、当日実演を行った。これらを活用することで、より妥当性の高いテストを作成することが可能になる。

#### 【単元計画作成の様子から】

上記の実践発表を踏まえ、参加者がそれぞれ教科書から好きな単元を取り上げて、つきたい力を明確にして単元計画を作成する時間を設けた。教科書の学年毎、グループを作り日頃の実践での悩みや今後の展望など自由に語り合いながら単元計画を作成する様子があった。倉澤指導主事にも適宜助言をいただき、特に「言語活動の目的」を大切に単元計画を作成した。作成していただいた単元計画は一度回収し、「単元計画参考資料集」としてひとまとめにし、後日各校へ配布した。

上記のように、今年度は指導観やつきたい力を明確にすることの大切さを感じながら、日々の実践に活きるような研修を行うことができた。特に第三中学校の実践も、指導観の変化が生徒に大きな変容をもたらしたことがうかがえるものであり、提供していただいた授業と研修内容が合致する有意義な時間とすることができた。



## 4 委員の実践について

### (1) 学年経営の視点としての研究

#### 第3学年 外国語活動 学習指導案

1. 教科書名：Let's Try 1（東京書籍）

2. 単元名： Unit 6 ALPHABET

～自分の好きなアルファベットを伝え合おう！～

3. 関連する領域別の目標：

聞くこと

(ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。

4. 単元の目標

自分の好きなアルファベットとその理由を伝え合おう！

5. 単元計画

時	○主な学習活動	主な指導内容		
		知技	思判表	学び
1	○アルファベットをAからZまで言ってみる。	アルファベットの発音や、順番を知る。		自分の好きなアルファベットを伝えたいという思いを確かめる。
2	○絵の中からアルファベットを探し、そのアルファベットを伝える。	アルファベットの音とその文字の形が分かるようにする。		
3	○アルファベットの仲間分けをして、仲間分けした理由を伝え合う。		アルファベットの音や形などに着目し、仲間分けを考える。	
4	○校内に隠れているクリスマスに関係するアルファベットを探して書く。	アルファベットを見て4線に注意して書き写す。		
5 本 時	○自分の好きなアルファベットとその理由を伝え合う。		自分の好きなアルファベットとその理由を伝え合う。	自分の好きなアルファベットとその理由を伝え合おうとしている。

6. 研究内容（学年経営部会）

- ・全校で授業の開始や終わり、聞き方や話し方の掲示を統一（東小スタンダード）

①学習の準備

レベル1	チャイムや先生の指示で学習の準備（※）を始める。
レベル2	チャイムや先生の指示の前に学習の準備をしておく。
レベル3	移動教室のときは、忘れ物がないように学習の準備をしておく。
レベル4	移動教室の時は、チャイムが鳴る前に学習の準備ができている。

※トイレに行ったり、机の上に何もないようにしたりしておくなど心構えをつくる。

②聞き方

- 「あ」 あいてを見て
- 「い」 いっしょうけんめい
- 「う」 うなずきながら
- 「え」 えがおで
- 「お」 おわりまでききます

③話し方

- 「か」 かおを見て
- 「き」 きちんとさいごまで
- 「く」 口を大きくあけて
- 「け」 げんきな
- 「こ」 こえではなします

※話し方・聞き方は全校で「あいうえお」「かきくけこ」の姿を目指します

④授業後

レベル1	つくえの上のものをしまい、いすをしまう。
レベル2	使った道具をもとの場所にもどす（※）。
レベル3	身の回りに落ちているものやごみを拾う。

※鉛筆、けしごむを筆箱に戻す。教科書やファイルを入れるケースがあれば、使った物をそこに戻す。

- ・外国語科としての統一した掲示物



※3つを掲示し、子どもたちが学習を単位としてとらえ、今日は何のためにどんな活動を行うのか意識できるようにする。

# 授業づくり構想シート

【授業日】12月6日(金)5校時	【学年】3年【場所】3年1組教室
【教科】外国語活動	【単元名・題材名】Unit6 ALPHABET

## 【ねらい (つける力)】

アルファベットの音や形などに着目して仲間分けをしてきた子どもたちが、自分の好きなアルファベットを伝え合う場面で、アルファベットの歌を歌ったり、アルファベットの文字の形の特徴を確認したりすることを通して、自分の好きなアルファベットやその理由を伝えることができる。

授業の終末に、子どもたちがどんな発言・記述をすれば本時のねらいが達成されたとなるのか

- ・東小スタンダードの話し方の「顔を見て」や聞き方の「うなずきながら」というのがよくできた。
- ・英語を使って、友達に好きなアルファベットを聞くことができ、友だちのことを知れてよかった。

導入 (本時何をするのか、子どもと課題を共有する場面)

- ① 教師の好きなアルファベットクイズを行い **Today's Goal** (めあて) 確認する。
  - ・懐中電灯クイズで教師の好きなアルファベットを予想する。
  - (先生の好きなアルファベットは何だろう?他の友達の好きなアルファベットもきいてみたいな。)

**Today's Goal:** 「自分の好きなアルファベットとその理由を伝え合おう！」

- ② 本時の **Today's Plan** (活動内容の流れ) を確認する。

展開 (好きなアルファベットを東小スタンダードを意識してたずね合う教師の手立ては?)

- ①アルファベットの音の良さを確認する。
  - ・アルファベットソングを歌う。
  - ・音で好きなアルファベットを何人かに聞いていく。
- ②アルファベットの形の良さを確認する。
  - ・アルファベットブロッククイズをする
  - ・形で好きなアルファベットを何人かに聞いていく。
- ③好きなアルファベットを伝え合う。
  - ・ワークシートに好きなアルファベットとその理由を記入する。
  - ・東小スタンダード (別紙) で、**Today's Point** (たずねる時のポイント) を確認する。
  - ・ペアでたずね合い方を練習する。
  - ・他の友だちにも好きなアルファベットをたずね合い、ワークシートを埋める。
  - (うまくたずね合えない児童には個別に訪ね方を練習したり、最初は日本語で聞いてもOKだと伝えたりする。)

終末 (まとめ)

- ① 本時のふり返しを行う。

はじめ

10分

## 7. 成果と課題

### 【成果】

- ・教師の例を提示することによって、子どもたちは他の人の好きなアルファベットを聞いてみたいという思いが生まれてきた。
- ・相手に質問するとき東小スタンダードを意識してやり取りしている姿をみることができた。
- ・他の人に何人も聞いてみたいという子が表れ、理由もその子独自の理由など楽しく活動していた。

### 【課題】

- ・子どもたちが活動の最後にもっと時間が欲しいと言っていたので、言語活動の十分な時間確保をした。
- ・相手の理由を聞き取る時に、ワークシートに記入することで、東小スタンダードの「相手をみて」というところを意識することが難しかった。

## 五 研究のまとめと成果

本年度は小学校の5・6年生の教科書が改訂され、来年度は中学校の教科書が改訂される。また、教育課程研究協議会の在り方が見直されるなど変化のある年度であった。そういった変化がある時には、こういった情報共有の場がとても大切であると思う。一人で悩んで解決できないものは、他の人に相談したり、新しい情報を聞くと案外とすぐに解決できたりすることもある。これは、外国語の授業でも同じである。他者とのコミュニケーションを通じて自分の課題を解決したり、新しい情報を得たりすることで、自分のコミュニケーションの在り方を見直したり、外国語の本質を捉えたりできるとより一層言語能力が向上していく。そういったことを教師自身もこういった場で体感していくことが必要であると思う。そんな場として、本年度は教育課程での小中2校の実践や午後の研究協議会が行われた。

北御牧小学校の実践では、「修学旅行で出会う外国から来た観光客の人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、自分たちのふるさと「北御牧」を紹介しよう。」という単元のGoalを設定し、北御牧の魅力を伝えたいという児童の願いのもと、必要感のある場面設定を設けることで意欲を高め、見通しをもって活動に取り組んでいく実践につながった。本時では、友達や参観の先生方に実際に自分が伝えたいことを伝えてみて伝わるのかどうか試行錯誤しながら、自分の伝える英語をブラッシュアップさせていく姿がみられた。そうした言語活動を繰り返していくことで子どもたちが主体的に学習していく姿がとても印象的であった。

第三中学校の実践では、「ALTの先生に推しを紹介しよう。」という単元のゴールを設定した。本時ではALTに伝える前に友だちに伝えたり、動画を撮影し自分の発表をふり返ったりするなど実際の発表を意識して練習を行うことで、子どもたちの発表が変容していく姿がみられた。

2校の実践に共通していることは、「目的・場面・状況の効果的な設定」である。誰に、どんな場面で、どんな状況で、何のために伝えるか子どもたちが理解することで、子どもたちは自然と伝える内容を吟味し、練習し始める。そのことが、研究テーマでもある「主体的・対話的で深い学び」につながっていくと考えられる。また、「目的・場面・状況」は、「思考・判断・表現」の力を高めるためには欠かせないものである。これからの時代、「知識・技能」を高めることももちろん必要だが、その「知識・技能」をどのような場面で、どうやって活用していくか判断し表現する力が求められてくると考える。2校の実践の様に、言語活動を通して、そうした力を高める様な授業づくりをしていきたい。